



1 森林セラピーで自然を満喫2 空き家バンクに登録を予定している及川さん(左)の物件を見学3 体験時に宿泊できる移住お試し住宅4 夕食交流会では、新米をはじめ、市内産の牛肉、豚肉や旬の野菜を味わう5 農業体験でコマツナを収穫



自分らしく、このまちで

live support

ライフスタイルに合った生活を提案・サポート

市では、移住・定住の支援として、住宅の新築・購入費用や家賃の補助、空き家の紹介など、さまざまな取り組みを実施しています。効果的に移住・定住を推進するためには、相談者一人一人のニーズに合わせた、きめ細やかなサポート体制の構築が必要です。そこで、移住・定住を希望する人たちに情報の提供や支援をするため、2017年7月に「登米市移住・定住サポートセンター」を迫町佐沼のアルテラスおおあみ内に開設。移住希望者はもちろん、市内に定住したい人たちが快適に暮らせるようにサポートしています。



移住・定住サポートセンター
☎0220(23)8711

活に必要な情報の総合窓口。相談者の不安を解消しやすいように、ワンストップで対応できる体制になっています。

登米市を知ってもらい移住者を増やす

10月28日に、東京都で登米市単独での移住セミナーを開催。これまでも移住相談会に出席してきましたが、多くの自治体が出展しているため、説明する時間が短く、情報を伝えきれないことが課題でした。セミナーでは、移住相談会のほか、移住者の生の声を届けるため、県内初となるテレビ電話を活用した中継を実施。埼玉県から移住して就農した常永秀晃さん(米山町今泉)が、生活環境や農業について説明し「移住は、こういうライフスタイルが自分や家族に合っているのかをしっかりと考えることが大切」と参加者に伝えました。



テレビ電話を活用し、生活環境や農業について説明する常永さん家族

直接見て触れて感じる移住体験ツアー

移住を考えている人に、市民との触れ合いなどを通して魅力を感じてもらうため、昨年からの「登米市移住体験ツアー」を実施しています。参加者が1人だけのときもありましたが、東京などでの周知活動を重ね、徐々に参加者が増えてきました。

7回目となる移住体験ツアーを10月に1泊2日の日程で開催したところ、募集人数を上回る13人が参加。農業体験、空き家見学や森林セラピーなどを実施しました。夕食交流会では市内産の新米をはじめ、牛肉、豚肉や旬の野菜を味わってもらい、登米市の魅力を見て触れて体感してもらいました。

空き家を所有する及川初夫さん(東和町米川7区)は「昨年父が亡くなり空き家になりました。空き家が増えると地域が寂しくなる。誰かに活用してもらいたい、たくさん思い出が詰まった家に生き続けてほしい」と空き家バンクへの登録を予定しています。

農業体験を受け入れた、おとちグリーンステーション代表取締役の柳渕淳一さん

経験を生かして心もサポート



移住・定住サポートセンター(登米市地域おこし協力隊)

氏家 和寛さん(36)

い知ってもらうことが大切。実際に農業などを体験することができるツアーを企画しています。東京都での移住相談会などで参加を呼び掛け、体験ツアーをきっかけに移住した人もいます。

サポートセンターでは、移住・定住するための住居、就職や子育て環境などの相談対応はもちろんですが、移住の経験者だからこそ分かる相談者の不安な気持ちを取り除けるようにサポートしたいと思っています。地域や人との距離が近いサポートセンターにしていきたいので、気軽にお越しください。



移住相談会で、移住希望者から相談を受け付け。30~40歳代の人が多く来場

昨年4月に地域おこし協力隊として登米市に採用され、札幌市から移住してきました。現在は主に移住・定住サポートセンターに勤務しています。

移住を考えたいきっかけは、子育ての環境です。札幌市に住んでいた頃は、生活は便利でしたがアパート暮らしだったため、迷惑にならないように生活音を常に心配していました。子どもには、走り回ったり、大きな声を出したりして元気に育ってほしかったので、移住を検討。地域おこし協力隊の募集イベントで声を掛けられて話を聞き、妻も賛成してくれたので、移住することを決めました。登米市は、自然が豊かで商業も発展した「ちよっどいい田舎」。とても住みやすく、よそ者を受け入れてくれる「人の温かさ」がうれしかったです。

サポートセンターでは、市内外からの相談に随時対応しています。移住を検討している人には、まず登米市に来てもら

(米山町迫土地)は、農業研修や新規就農者を積極的に受け入れていきます。「受け入れる理由は、若い担い手を育成するため。農業生産法人などでは、就農希望者を受け入れる体制があると思いますが、移住者は就農することへの不安があるはず。本市には、誰もが使用できる短期研修のための滞在施設がないのが課題だと感じています。研修しやすい環境にすることで、より移住先に選んでもらえるようになると思います」と受け入れ体制の課題を指摘します。

「担い手不足は深刻な課題。私の会社では、継続的な農業経営ができるように、若い人を積極的に採用し、従業員の平均年齢は30代前半です。移住・定住者が増えることは、農業だけではなく地域の活性化にもつながります。住みたいと思ってもらうためには、私たち一人一人が受け入れる心を持つことが大切」と地域全体の将来を考えています。



おとちグリーンステーション 代表取締役 柳渕 淳一さん(61)

参加者interview

福田隆史さん(36)家族 (東京都世田谷区)

田園風景が広がる環境で、子どもを伸び伸び育てたいと考え移住を検討しています。農業に興味があり、就農したいと思っています。今回は、実際に移住して就農した人から話を聞くことができ、とても参考になりました。

松田恵美さん(34) (東京都品川区)

母の実家が東和で、登米市にはたまに来ていました。子どもの頃から自然の中で遊ぶのが好きで、大人になった今でも自然と触れ合える生活がしたいという思いは変わりません。自然とともに落ちついた生活がしたいです。

